

がん登録情報を用いた
大腸がんの年齢階層別特徴に関する
探索的観察研究
【概要】

がん登録情報を用いた大腸がんの年齢階層別特徴に関する探索的観察研究

➤ 利用目的

栃木県がん登録データを用いて、年齢階層群別の大腸がんの特徴を明らかにし、年齢階層に応じた、大腸がん検診・治療戦略を検討することを目的とする。

- ・大腸がん検診に関しては、受診勧奨年齢についての新しいエビデンスを創出したい。
- ・治療に関しては、全年齢階層群の治療や予後の実態が解析可能であり、通常の診療データからは解析が難しい、若年者や高齢者における治療選択の一助となる結果が得られることが見込まれる。

➤ 研究計画の承認について

研究計画の倫理審査委員会については、すでに承認済み

倫理審査委員会名称: 国立研究開発法人 国立がん研究センター研究倫理審査委員会 承認番号: 2025-104

➤ 研究組織

研究代表者(情報提供申請者):

国立がん研究センター中央病院 検診センター 部門長/国立がん対策研究所 検診開発研究部 部長 小林 望

共同研究者:

埼玉県立大学 健康開発学科 教授 大木 いずみ

大阪医科薬科大学医学部医療統計学研究室 非常勤講師 太田将仁、教授 伊藤 ゆり

国立がん研究センター 中央病院 検診センター/がん対策研究所 検診開発研究部 研究員 久田泉、研究員 関口 正宇

栃木県立がんセンター がん予防情報相談部 部長: 中原 理恵

研究事務局:

国立がん研究センター中央病院 検診センター/がん対策研究所 検診開発研究部: 研究員 今野 真己

➤ 使用データについて

- ・使用年:2016年-2021年
- ・使用ICD10コード: ICD 10 C18(盲腸-S状結腸)、C19(直腸RS)、C20(直腸Ra, Rb)
- ・属性的範囲: 匿名化された20歳以上の1歳階級毎のデータ、6年分の使用を予定である。

※ 以下の観点から、1歳階級毎のデータの提供をお願いします。

(1) まるめへの対応:

- ・年齢調整罹患率を算出する際に基準人口を使用するが、先般、新たな基準人口(2015年)が作成された。
- ・その基準人口では高齢化の影響を検討する上で、従来の85歳以上から95歳以上のまるめに変更されている。
- ・国の施策評価において、今後上記の基準人口への対応が必要となる。また、相対生存率、純生存率では100歳以上を除外して計算するので、これに対応できるよう、1歳階級による提供を希望する。

(2) 純生存率の算出:

- ・がん以外の他因子死亡の、より適切な補正方法として用いられる計算方法を適用する上で、一般集団の死亡率と対応させた期待死亡率を生命表から算出するため、暦歴と年齢を使用する。
- ・5歳階級のまるめであると、純生存率の算出に、5歳階級中の年齢をランダムに割り当てなければならない、正確性に欠ける。国際標準にあった手法での生存率算出のため、1歳階級の診断時年齢の使用を希望する。(より正確性を期すため、可能であれば生年月の使用を希望したい。)

➤ 評価項目・統計学的手法について

主要評価項目:

栃木県の大腸がんの疫学像を、がん登録提供項目をもとに集計し、特に年齢階層群別に着目して検討する。
これらは単純集計、クロス集計を用いる。

副次的評価項目:

各変数別の実測生存率、純生存率や過剰ハザード比などを算出する。
実測生存率は、Kaplan-Meier法にて推定する。純生存率は、日本の生命表を利用しPoher-Perme法にて算出する。
また、各変数を含めた過剰ハザードモデルによる多変量解析により、過剰ハザード比を算出する。

➤ 解析場所・安全管理

解析場所は、国立がん研究センターがん対策研究所、埼玉県立大学、大阪医科薬科大学を予定する。
いずれも安全管理については、問題なく担保されている。

➤ 公表予定

2027年6月頃 日本がん登録協議会で発表予定

2027年9月頃 栃木県公衆衛生学会で発表予定

2027年10月頃 大腸がん関連の臨床あるいは疫学関連の雑誌に論文投稿予定